



写真は全て市内で撮影されたものです

特集 羽越水害の教訓

1967.8.28 ~ 29

～あの豪雨から半世紀を経て～

昭和42年8月28日・29日の両日にわたり山形県中南部を襲った集中豪雨は、本県気象観測史上初めての驚異的な豪雨となりました。山形県の中南部は、28日朝6時前後から雨が降り始めましたが、西置賜の小国町を中心として驚異的な集中豪雨となり、本市では238mm(24時間)という雨量に達しました。

この雨による災害は、山形県のほぼ全域に渡りましたが、特に西置賜一帯がひどく、県南の米沢でも中小河川が氾濫し、大出水となりました。市を貫流する最上川、その支流川である堀立川、天王川、羽黒川、鬼面川及び誕生川などの中小河川が瞬時のうちに増水し、濁流は渦を巻き奔流しました。この水魔のため、特に市街地の低地帯に至る所で床上・床下浸水家屋が続出しました。本市の被害は、罹災者世帯3056戸、死者4人、罹災者1万3132人、道路決壊180箇所、橋の流出14箇所、田畑の冠浸水は1442ヘクタールに及びました。

あれからまもなく50年——。羽越水害はどんな水害だったのか。そして、その教訓は今にどう生かされているのか。当時を振り返り考えます。



【写真解説】①直江兼続が築いた直江石堤。水害を防ぐ目的で総延長は10kmにも及ぶ。②当時の状況を記録した冊子。被害の大きさを物語る。③学園ロードにある新大橋。現在はコンクリート製の橋に架け替えられ、多くの車が行き交う。

橋が崩れ、 兄が流された



目崎 守 さん
(芳泉町)

[Profile] 松川地区町内会長や松川コミュニティセンター管理運営委員長などを歴任。定年後は趣味の園芸を楽しんでいる。

誰もが経験したことのない未曾有の豪雨、羽越水害。災害発生時ほどのような状況だったのでしょうか。ここでは、当時を知る目崎守さんに話を聞きました。

昭和42年8月29日、目崎守さんは朝の出勤前に、実家のある芳泉町へ長男を預けに行きました。「息子をおんぶしながら、バイクで最上川の堤防沿いを走りました。今よりずっと低かった堤防からは、最上川が濁流になっていたのが見えました」。

そのころ、兄の齊さんは消防団のOBとして、仲間と共に新大橋を通行止めにする作業をしていました。当時の新大橋は木造で、前日から降り続いた豪雨により、橋が流される危険にありました。

そこで悲劇が起こります。作業中に橋が崩落、8人が川に流されました。4人は泳いで兩岸にたどり着きましたが、残る4人が行方不明となりました。守さんは息子を預けた帰り道、近所の人に兄が流されたことを聞いたと

言います。その後、懸命な捜索が行われましたが発見には至らず、齊さんは事故発生から51日目に遺体となって発見、4人全員の死亡が確認されました。目崎さんは当時を振り返り、「兄が流されたと聞いた時はまさかと思いましたが。情報が確実だと知ることができたので1時間を、今でも忘れることができません」と語ります。

さらに、豪雨は市内に甚大な被害をもたらしました。市中心部では堀立川が氾濫。西部地区を中心に数千戸の家屋が浸水しました。「大きな被害が出た羽越水害ですが、芳泉町は直江石堤が一部破損しただけで済みました。最上川が氾濫していたら、もっと大変な被害になっていたと思います。直江石堤がこのまちを守ってくれましたね」目崎さんは目を細めて言いました。

米沢は本当に災害が少ないの？

災害はいつどこで発生するか分かりません。昨年の8月も豪雨や台風により、本市に多数の被害がありました。

①豪雨（8月2日(火)）

板谷地区で8人が自主避難。船坂トンネル付近の県道で土砂流出のため通行止め。

②台風7号（8月16日(火)）

福田町で床下浸水1棟。

③台風9号（8月22日(月)）

姥湯、滑川温泉などが土砂崩れで孤立状態。板谷、関根地区で15人が自主避難。

④台風10号（8月30日(火)）

姥湯、滑川は営業休止。小中学校は休校。



【写真解説】①地区の防災倉庫。中には発電機や投光器、テント、担架が収納されている。②昨年度の救命救急講習会では止血や包帯の技術を学んだ。③地区の総合防災訓練。10分程で地区全員の安否を確認できる体制をとっている。④防災福祉マップと自主防災マニュアル。



二度と悲劇を繰り返さないために

豪雨や台風などの自然の猛威を防ぐことはできませんが、被害については「日頃の備え」によって減らすことができます。防災の基本は自助と共助。住民が協力して助け合おうとする現場取材しました。

平成7年、市内で14番目に設立された花沢団地自主防災会。会長を務める平山博志さんを中心に、会では「日頃の備え」について、市内でも先進的な活動を行っています。

毎年行われる会の活動は、防災福祉マップの作成、総合防災訓練、初期消火訓練、救命救急講習会など。カラフルな防災福祉マップには、避難時に役立つ情報、援助が必要な家に住民が協力できるような情報が分かりやすく掲載されています。「役員だけでなく、住民が広く情報を共有することは防災上とても大切です」と平山さん。情報の収集にあたっては、住民に丁寧な説明し協力を仰いでいます。最新情報を住民が共有できるように、マップの内容は毎年更新して配布するそうです。

平山さんが考える「防災」とは何で



平山 博志 さん
(花沢町1丁目)

【Profile】花沢団地に住んで約30年。同地区自治会長及び自主防災会会長、東部地区自主防災会連絡協議会会長を務めている。防災士・山形県地域防災アドバイザーの資格も持つ。

自主防災組織をつくりませんか

本市では、防災資機材の交付、防災に関する出前講座の実施、各種の自主防災組織リーダー研修会への参加などを支援しています。

<防災資機材を交付します>

- ・新規に組織を設立する場合…50世帯未満：3万円相当、50～199世帯：5万円相当、200世帯以上：7万円相当※誘導旗、ヘルメット、救急セットなど
- ・既に設立した組織で防災訓練を実施する場合…1万円相当

■問合せ／環境生活課危機管理室

しょうか。「皆が安心安全に暮らすための備えです。万が一での態勢が整っていれば、日常を安心して過ごせますから」と、平山さんの目は災害時だけでなく、住民一人一人の暮らしにも向けられています。「米沢は風水害被害が少ないイメージですが、市内には最上川、羽黒川、堀立川、鬼面川と大きな川が流れ、浸水想定区域もあります。大きな被害がないとは言いきれません」と防災の重要性を語ります。

現在、平山さんは、花沢団地自主防災会で培ったノウハウを伝える活動も行っています。「自主防災会が活動しやすいようサポートし、いずれば市内全域にまで防災の輪を広げていけたらと思っています」と話す平山さん。地域住民同士の協力が、今日も穏やかな日常を守ります。



羽越水害を教訓に今こそ確認！ 風水害に万全な備えを

風水害が発生した場合には、私たち一人一人の心構えや準備が何よりも重要になってきます。対策として最も重要なものは、私たち自身の日頃からの備えなのです。

平成 19 年の台風時の松川河川敷

Point 1 風水害に備えて普段の心がけ

- 天気予報や気象状況に気を付ける
テレビ・ラジオ・新聞の天気予報に注意し、天気
の移り変わりに気を付けましょう。
- 非常食や持ちだすものなどを準備しておく
非常食には、調理の手間がかからず、水もあまり
使用しないものを選びます。飲料水も忘れずに。
- 指定避難場所や避難路を確認しておく
地区ごとに、緊急・災害時に避難する場所が定め
られていますので、確認しておきましょう。
- 大雨や台風に向けて家の周りを点検整備する

Point 2 市が発令する情報に注意

本市では、災害の危険性が高まった時、避難
情報を発令します。

種類	とるべき行動
避難準備・ 高齢者等 避難開始	高齢者や災害時要援護者など、特に避難 行動に時間を要する人は、避難所への避 難行動を開始してください。
避難勧告	お互いに助け合って、計画された避難所 に速やかに避難を始めてください。
避難指示 (緊急)	指定された避難所に緊急避難してくださ い。対象地区の人全員が必ず避難をして ください。

Point 3 避難情報の伝達方法を確認

避難情報は、次の手段により市民の皆さんに
伝えられます。

伝達手段	内容
同報系防災 行政用無線	各地区に設置された拡声器により音 声を出力します。
エリアメール コミュニティ FM	携帯電話にメールで情報を伝えます。 ニューメディアのラジオ番組 (83.4MHz) で放送します。
L 字放送	ニューメディアのテレビ番組 (9 チャン ネル) 上に L 字で情報を流します。
広報車	消防団と市の広報車で広報します。

Point 4 安全に避難しましょう

- 必ず集団行動をとりましょう。
- 水が腰の高さになったら無理をせず、高いと
ころで助けを待つようにしましょう。
- 先導する人は、長い棒などでくぼみを確認し
ながらゆっくりと歩きましょう。
- 水の流れが速い場所では体力のある大人を前
後に配置し、体をロープでつなぎましょう。
- 危険時は荷物を捨てて身軽にしましょう。
- 子どもには浮輪を持たせ、高齢者や体の不自
由な人は背負うなどの介助をしましょう。

積極的に情報収集をしましょう

行政機関が避難情報・防災気象情報を伝達する前
でも、雨の降り方に注意し、大雨や長雨、局地的な
集中豪雨のときは、テレビやラジオ、インターネット
などを用いて積極的に情報収集をしましょう。

- 市ホームページ「防災・消防に関する情報」
<http://www.city.yonezawa.yamagata.jp/1180.htm>
- 山形県ホームページ「河川・砂防情報システム」
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp>

テレビでも災害情報を確認できます

NHK 総合テレビでは、災害情報や避難所
情報、交通やライフラインについての情報
などを、データ放送画面で一覧としてご覧
いただけます。デジタルテレビをご覧の人は、NHK 総合テレビにチャンネルを合わせ、リモコンの d ボタンを押すだけで、簡単にデータ放送画面を表示できます。

